

Q 学校教育目標を設定するときに留意すべきことを教えてください。

A 4月1日、新しい勤務校に着任するなり、教頭から「早速ですが、明後日に最初の職員会議が予定されていますので、今年の教育目標をお話してください。」と言われました。

この学校の事を何もわかっていない私が、大切な教育目標を今決めるのは難しいと思いながら、「昨年度までの教育目標を継続したい」と、返事をしました。そして、2日後の会議では、昨年度の教育目標を私なりに解釈し、先生方に徹底をお願いしたのですが、どうもすっきりしませんでした。

それから3カ月後、「今年の教育目標は？」と教員に問うと、やはり、まともに答えられる者はいませんでした。数年前から同じ文面であるのに・・・・・・・・。

このように、どこの学校でも教育目標が設定され、様々な文書類にきちんと表記されていますが、その関心度や理解度となると、かなりお寒い現状があるように思うのです。

学校教育目標は、「眼前の子どもについて、これを育て上げようとする望ましい人間についての具体的な目当て」（『日本の学校教育目標』ぎょうせい1978）です。学校教育目標には、子どもをいかなる人間に育てるかといった人間像、また子どもに身に付けたい力（学力や資質・能力）を強調したものなどがあります。こうしたことから、学校の教職員は誰もがその内容を正しく理解し、ことある度に、この視点で自らの実践を見つめ直すことが大切です。

教育目標の決定は校長の専決事項ではあるのですが、それ故に決定までの過程では、学校・児童生徒・地域保護者の実態を踏まえ、教職員による協議が大切だと考えます。多くの学校では、年度末には「総括会議」を開き、1年間の取組の成果と課題について話し合いますが、年度末の忙しさがああり、形式的な総括会議となることが少なくありません。これが学校の取組の停滞化につながっているように思うのです。

総括をきちんとしてこそ、次への道が開けてくるものです。そこで、年度末に集中して総括するのではなく、大きな行事の終了時や節目となる時季に反省と次年度への展望を描きながら、年度末には総括的に協議を行いました。こうすることで、年間を通して教職員の意欲を学校教育目標の達成に向けて動議づけでき、次年度は教育活動を方向づける学校教育目標を設定することができました。

校種

全校種